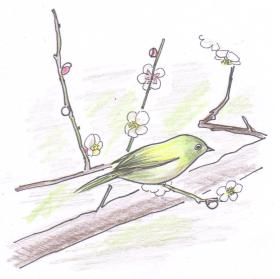


梅林 (みなべ町)

CONTENTS

- 1. 知事メッセージ・・・・・ P1
- 2. 和歌山県政トピックス・・P2~P10
- 3. お知らせ・・・・・ P11
- 4. ふるさと歳時記・・・・・ P12



梅とめじろ (県の花と鳥)

「聞く耳を持つ行政を」

就任後早や2年が経過しました。この2年間で一番自慢できるものがあると すると、県内あちらこちらに出かけ、皆さんの意見をよく聞いたかなというこ とです。この2年で数えてみると県内各地だけで182回出かけ、各地の実状 を自分で見て、大勢の方と話ができました。県政ポストには全部目を通し、県 庁にお越しの方々も以前よりは格段に増えていると思います。行政の要諦は、 目と耳を大きくして実状をつかみ、それに応じた対策を考えて、スピーディに 実行することです。第一歩である実状の把握が今一つであると始まりません。 また良かれと思う政策も一人よがりではぱっとしません。耳を大きくすること は、知事だけでなく、県庁の産業・企業別担当者制度など県庁全体で努力して います。

そうやって把握している最近の中小企業、県民生活の状況は大変です。一例 を挙げれば、ずっと傷んで来た建設業界の窮状など目をおおうばかりです。何 も好きこのんででなく不当廉売に走らざるを得ない企業も多々あります。不当 廉売は、公正取引委員会も叱りに来るような事業者自身の問題なのですが、県 としても何とかそれをしにくくするような制度の改正で業界を支援しようと 制度の手直しをしました。本当はもっと無茶をしてでも業界を助けてさし上げ たいのですが、他の県民に損をさせるような方法はとれません。わざと高い価 格で発注したりすると、それは県民全体のお財布を軽くすることになるからで す。聞いたからと言ってすべて要望や不平をかなえられるわけではありません。 しかし、県としては聞く耳を持ち続け、県民の悩みを背負い続けるしかないの

です。



樹祭」の開催決 定の記者会見を 行う仁坂知事。 全国植樹祭は 平成23年田辺市 で開催される予 定です。なお、 本県では昭和 52 年以来 2 度目の 開催となりま す。

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●「和歌山で働きませんか!」3つのプロジェクト

・全国的には不況で派遣契約を打ち切られた人や内定を取り消された人、あるいは正社員でもリストラをされるという話がずいぶん広がっています。今、相対的に多くはないですが、和歌山県でも当然あります。そういう方々を放置してはいけないということは明らかなのですが、一番大事なことは、その人の残りの人生を全部かけられるような立派な企業に、永久の就職をしてもらうということです。そして和歌山県には需要があるのかと考えると、県内には立派な中堅・中小企業がたくさんあるにもかかわらず、大企業の名前に押されて、どうしても好況時期になかなか人材を採用しきれなかったきらいがあるわけです。そうした企業がこの機会を捉えて、将来、会社の柱石になるような人を雇ってもいいという動きもあります。その辺をマッチングさせようと工夫しました。(知事定例記者会見から)

第1弾「ホームページを開設しました!」

- ・県では、内定を取り消された大学生や雇い止めにより職を失った非正規労働者に対し、 正社員採用の意志を持つ企業の情報を提供するため、「和歌山で働きませんか!」のホームページを開設しました。このプロジェクトにより、雇用の安定を図るとともに、県内企業に優秀な人材を呼び込みたいと考えています。
- ・仁坂知事は「たまたま職を失っている人と、県内の優良であるが、知名度が低く人材を 取り損なっている企業をうまくマッチングさせたい」としています。
- ・ホームページでは、企業の概要(社名、所在地、事業内容、従業員数、連絡先、ホームページなど)、魅力やアピールポイント・採用情報、就職面談会等の開催情報、県内の住宅情報を紹介しています。
- ・なお、参画企業は、銀行業、製造業など69社(1月27日現在)で、募集人数枠は約120人の予定です。

ホームページアドレス

http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/060100/wakayamahataraku/index.html ※和歌山県ホームページ(和歌山県情報館)

第2弾「和歌山で農業しませんか?農業への新規参入者50人募集」

- ・県内の農村では、農家の高齢化や遊休農地の増加など地域の基幹産業として発展してきた農業を守って行くことが難しい状況にあり、時代の変化を的確にとらえた農業の担い手の育成が必要となっています。このため、農業への新規参入者50名の募集を行うとともに、県内農業法人や農家への就農を目指す方々や将来自立経営を目指す方々を対象に、就農・雇用相談会を実施することとなりました。
- ・県が情報提供や支援を行うことにより、スムーズな就農が可能となり、農業の後継者不 足の解消や和歌山の農業の発展につながるものと考えています。

【募集人員】

農業法人就農 20人

農家就農 30人

【就農相談会】

平成21年2月22日(日)10:30~16:00 梅田スカイビルタワーウエスト10階

ホームページアドレス

http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/nougyoubosyuu/ ※和歌山県ホームページ (和歌山県情報館)

第3弾「和歌山で福祉・医療の仕事をしませんか! (ホームページ開設)」

「和歌山で介護の仕事をしませんか!100人募集」

・和歌山県では、県内の福祉施設や医療施設での人材不足を解消するため、県内の福祉施設、医療施設の中で求人があり、了解を得られた施設等の一覧を県ホームページに公表し、より多くの方に就職の機会を提供します。

この活動により、優秀な方が県内外から和歌山県に定着していただける機会となればと 考えています。

・この一環として、介護職場への就職を希望する方や介護の仕事に関心のある方を対象に、 就職相談会を開催します。新たな介護の担い手として介護未経験者や失業者の方もご参加 いただきたいと思います。

【募集人員】

100人

【就職相談会】

平成21年3月15日(日)13:00~16:00 和歌山ビッグ愛 1階展示ホール

ホームページアドレス

http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040100/fukushiwork.html ※和歌山県ホームページ(和歌山県情報館)

●県身体障害者連盟との懇談会開催

- ・1月16日、知事と県身体障害者連盟との懇談会を開催しました。
- ・同連盟からは23名の方が出席され、災害時の障害者への支援、障害者も入った避難訓練の実施、バリアフリーの推進等について、要望や質問がありました。
- ・様々な要望に対し、仁坂知事は「障害者のことも考慮に入れた避難計画や避難訓練について、市町村と協力しながら今後、進めていく必要がある。



バリアフリーについてもしっかり取り組んでいく。」と答えました。知事も時間が 許す限りいろいろなご意見を聞きたいと、終了予定時間を30分も超過しました。

●「企業の森」事業に1団体が参画し、47箇所に

- ・本県が進める「企業の森」事業に新たに「株式会社資生堂(椿の森)」が参画することになりました。2月20日に県庁で調印式を行なう予定です。資生堂はその企業シンボルマーク椿にちなんで、白浜町椿温泉の近くの森を借りて下さってそれこそ暖帯林の代表的樹木である椿を植えて下さることになっています。
- ・「企業の森」は県内で現在46箇所あり、今回の株式会社資生堂の参画で47箇所となります。県長期総合計画では、100箇所に増やす目標を掲げています。

●防災関連ニュース

●「災害救助犬防災協定締結式」

- ・県では、東南海・南海地震など大規模災害時に備え、捜索活動を行う「NPO法人和歌山災害救助犬協会(本部:新宮市)」と防災協定を締結しました。(右写真)
- ・この協定により、県災害対策本部からの要請に 基づき、同協会から捜索活動に出動していただけ ることになりました。同協会の榎本理事長は「有 事に備えて普段から訓練や防災の啓発に精進し



たい」と話し、仁坂知事は「前から頼りに思っていましたが、こうして協定を結ぶことで、 さらに心強く思います」と話しました。

・締結式には、同協会に所属する5頭の災害救助犬のうち「アニー」(ラブラドール・リトリバー)と「ミック」(ジャーマン・シェパード)の2頭の災害救助犬も出席しました。 2頭は協会理事の指示に従いきちんと着席し、しつけの良さを垣間見せました。

● 「地震体験車「ごりょう君」お披露目」

- ・県では、新しい地震体験車「ごりょう君」を導入し、この度県庁正面で披露しました。 (右写真)
- ・名称は公募した結果、津波から村人を救った「稲むらの火」で知られる、浜口梧陵にちなんだ白浜町 在住の山根さんの作品を選びました。
- ・「ごりょう君」は、県に甚大な被害を及ぼすとされる東海・東南海・南海地震の同時発生や中央構造線の地震などの揺れのパターンも体験できる最新型です。
- ・「ごりょう君」で実際に地震の揺れを体験した 仁坂知事は「震度6以上の揺れは全然違った。実 際の揺れを体験し、必要性を感じてほしい」と話 しました。



●「県防災センターへリポート離着陸訓練」

- ・県では、東南海・南海地震等の大規模災害発生 時に備え、県防災センターヘリポートでヘリコプ ターの離発着訓練を実施しました。(右写真)
- ・今回は、県防災へリコプター「きしゅう」と、 自衛隊へリコプターが参加し、離発着時の進路や ヘリポートの状況確認等を行いました。
- ・今後も、年1回程度離発着訓練を行っていく予定です。



●平成21年近畿連合和歌山県人会新年互禮会開催

- ・1月25日、「平成21年近畿連合和歌山県人会新年互禮会」が会員42名の出席のもと、兵庫県西宮市内のホテルで盛大に開催されました。
- ・近畿各県人会の代表理事である西宮和歌山県人会会長の大前明子さんの開会挨拶に続き、来賓出席した仁坂知事が祝辞の中で、和歌山県政の近況を報告しました。
- ・引き続いて行われた、懇親の部では近畿各県人会のメンバーが故郷の話題等で交流を深めるなど非常に盛り上がりました。



● 県行政ネットワーク「きのくに eーねっと」を民間開放

- ・県では、大都市圏との情報格差、県内の地域間情報格差是正のために、この度県が運営する行政ネットワーク「きのくに **c**―ねっと」について、目的に沿う民間等の利用を認めることにしました。
- ・「きのくに **C**―ねっと」とは、県庁と出先機関である各振興局等を結ぶ県庁の情報通信 幹線網で、現在、公共工事等電子入札システム、財務会計システム、教育ネットワーク等 県行政を支える情報基盤として、光ファイバーを使用しています。
- ・民間開放(有料)により、現在の県が使用している分を除くネットワーク容量を貸し出し、放送事業者・通信事業者・大学等の利用により県内の I T利用環境の向上を図っていきます。

●早春の「和歌山田舎暮らし」モニターツアー開催

- ・県では、「ふるさと定住センター」での田舎暮らしサポート研修や市町村による相談窓口と地域の方々による受入協議会の活動支援など、都会でお住まいの方々のU・Iターンを積極的に応援しているところです。
- ・現在、田辺市において、二地域居住やU・Iターンを希望している方を対象に、官民連携の移住・交流推進組織「田舎暮らし応援県わかやま推進会議」(県、26市町村、48民間事業者・団体)によるモニターツアーを実施しています。
- ・①田辺市移住相談窓口職員による生活関連施設案内、②宅地建物取引業協会田辺支部会員による住宅物件案内、をモニターしていただき、官民連携による受入態勢の強化を図ります。
- ★ 二地域居住:都市や地方の住民が、多様なライフスタイルを実現するため、本来の住居 とは別に農山漁村や都市に生活拠点をもち、中長期に定期的・反復的に滞在すること。
- ★ 詳細は下記のサイトまで。



● 春の選抜甲子園に箕島高等学校が出場決定

- ・第81回全国選抜高校野球大会に県立箕島高等学校(有田市)の出場が決定しました。 同校は18年ぶり9回目の出場で、昭和45年の第42回選抜大会で初優勝し、昭和54 年には史上3校目となる春夏連覇を成し遂げるなど、一時代を築いた古豪校です。
- ・今回の組み合わせ抽選会は3月13日に行われ、大会は3月21日から12日間の予定で開催されます。皆様も大いに期待してご声援下さい。

●わかやま喜集館がリニューアル

- ・首都圏における誘客と県産品の情報発信を行っている"わかやま喜集館"が、この度5周年を迎え、リニューアルしました。
- ・物産と観光を一体化させた情報発信をするために、店舗のベースカラーを県旗に用いられる紺碧のマリンブルーとし、アイキャッチとして、太陽と柑橘類をイメージした橙色を採用しました。また、ショーウインドウでは映像モニター等も活



用しながら物産、観光情報を発信していきます。

・冷凍と冷蔵機能を強化し、果汁飲料、水産加工物などの取り扱いを増やし、代表産品「梅」 を店内中央に配置し、和歌山らしさをアピールしていきます。皆さん新しくなったわかや ま喜集館に是非お立ち寄り下さい。

わかやま喜集館:東京都千代田区有楽町2丁目10番1号東京交通会館地下1階 http://www.kishukan.com/

●県産農林水産物・加工食品の輸出用ロゴマーク決定

- ・海外で「おいしい和歌山」を広めるためのシンボルマークとして、和歌山県産の農水産物・加工食品であることを示す輸出用ロゴマークのデザインを県内の中高生から募集した結果、534点の作品が寄せられ、和歌山県農水産物・加工食品輸出促進協議会で選考した結果、図案の元となったデザインを採用作品(大賞)としました。
- ・これでどんどん海外にも輸出するぞと県をあげて張り切っています。

「わかやま(和歌山)」の「わ」と本県で豊富に生産されている果物をモチーフに、おいしい和歌山県産の食品をイメージしています。



採用作品(大賞):有田川町立金屋中学校2年

森下さん

【輸出用ロゴマーク】

和歌山からの

お知らせ

●楽天(株)が運営する「まち楽」に和歌山県のPRページ開設

・県では、楽天㈱と協働し、物産・観光のみならず、さまざまな情報をこのページを使ってPRしていきます。「まち楽」とは、日本最大のインターネットショッピングモール「楽天市場」内に設置された都道府県別の物産・観光紹介コーナーです。

「まち楽和歌山」PRページの概要

- (1) 開 設 平成21年1月27日(火)
- (2) アドレス http://event.rakuten.co.jp/area/wakayama/tieup/
- (3) ページ概要

物産観光情報のほかさまざまな PR情報を掲載予定です。





っと!わかやまスタンプラリー」の詳細はこちら(pdf形式)

11 「和歌山電鉄 西国三社参りスタンブラリー」実施中



スーパー駅長のたまでおなじみの和歌山電鐵貴志 川線で、沿線三神社と貴志駅などをめぐるスタンブラリ ー。 広募者には、スーパー駅長たまグッズなどを抽選 で100名にブレゼント!詳しくは、スタンブラリー台紙 (広募はがき兼用)をご覧のうえ、たまののほりを目印 にお越しください。

● T V ショッピング(ショップチャンネル)で和歌山ライブ中継を実施

- ・ジュピターショップチャンネル㈱が運営する日本最大、24時間365日生放送のショッピング専門チャンネル「ショップチャンネル」が「日本を見つけよう~和歌山~」と題し、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」から生中継を実施します。
- ・「日本を見つけよう」シリーズは日本各地の名産品を現地からの生中継で販売する特別番組で、昨年から実施され、和歌山県は沖縄(7月)、北海道(8月)、神戸(9月)、飛騨(10月)、東京・お台場(11月)に続く第6弾として放送されます。
- ・なお、販売商品については県内で生産、収穫されたものを厳選して紹介します。

「日本を見つけよう~和歌山~」

放送日時 平成21年2月25日(水) 10:00~17:00

・販売商品 ごま豆腐、湯浅醤油&金山寺味噌セット、羊羹 活け〆キハダまぐろ、木熟はっさく、南高梅梅干し ニット製品、革製品等

- ・放送チャンネル ①全国のケーブルテレビ ②デジタルテレビ 055ch
- ③スカパー! 220ch ④スカパー! 光 220ch ⑤IPTV いずれも24時間放送 BS朝日、BSフジ、BS11 等(放送時間帯あり)

●「第3回わかやま産品商談会 in 大阪」開催

- ・和歌山県内の農水産物生産者と加工食品事業者(計96事業者)が、2月19日(木) 大阪マーチャンダイズ・マートにおいて、食品製造業界、食品流通業界、外食業界などの 商品仕入担当者(以下「バイヤー」という。)と、販路拡大に向けて商談を行います。
- ・今回は、「プレミア和歌山 P R コーナー」を設置し、商品やパネルを展示するなどしながら参加バイヤーにアピールします。商談ゾーンでは、認定 16 事業者が出展します。
- ・また、海産物PRバイヤーが最も関心を示している海産物をPRするコーナーとして、 イセエビコーナーを設置します。【県漁業協同組合連合会と県立和歌山商業高校との協働・ 生徒10名参加】

〔付エビ漁獲量:1位 千葉 246 2位 三重 178 3位 静岡 143 <u>4位 和歌山 138</u> 5位 鹿児島 94 単位 t〕 なお、主な出展商品は、梅干し、菓子、醤油、寿司、梅酒、ジュース、鯨製品、しらす などです。





●アジア最大の国際食品展示会「FOODEX JAPAN 2009」に和歌山県が 今年も大規模出展(3月3日~6日 千葉市・幕張メッセ)

・和歌山県は、アジア・環太平洋地域最大の食品・飲料の国際展示・商談会「FOODEX JAPAN 2009」に、県内サプライヤー等 31 事業者とともに全国自治体関係では最大の 36 小間で出展します。新設された「プレミア和歌山」推奨商品の紹介コーナー、日本一の「紀州・和歌山の梅」コーナーも設置し、県産食品を広く国内外の流通関係者にアピールします。

●「FOODEX JAPAN 2009 (第34回国際食品・飲料展)」の概要

会 期 2009年3月3日(火)~6日(金)の4日間

会 場 幕張メッセ (1~8 ホール) 千葉市美浜区中瀬2-1

主 催 (社) 日本能率協会、(社) 日本ホテル協会、(社) 国際観光旅館連盟

(社)日本観光旅館連盟,(社)国際観光日本レストラン協会,(社)国際観光施設協会予定来場者数 90,000名

●「FOODEX JAPAN 2009 和歌山県ブース」の概要

位 置 幕張メッセ 8ホール 特別展示「全国食品博」内

規 模 36小間 (262.44 ㎡)

出展事業者 31事業者

内 訳: 梅干・梅加工品 13, 果実・農産物及び加工品 8, 水産関連 3 清酒・梅酒関連 5, その他加工食品 2

●ミシュラン旅行ガイドブックで高野山が最高の★★★評価を受けました。

- ・ミシュランの旅行案内書『ギド・ベール(グリーンガイド)』の初の日本編「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」(仏語、本年3月発行)で、高野山が★★★の評価を受けました。
- ・★★★は、「フランス人がわざわざ足を運ぶ価値がある」と推奨する場所で、今回は、 17カ所が選ばれました。関西では高野山以外に、京都、奈良、法隆寺、姫路城、伊勢神 宮が★★★を獲得しています。
- ・評価項目は、「印象深さ」や「知名度」「遺産的豊かさ」など9項目で、その総合的判断により決定され、 高野山は、特に「印象深さ」の項目で高い評価を得ま した。
- ・編集者は、高野山に関し、「浮世と全く違う時間が流れている。森の中を行くと伽藍が現れる。西洋人にとってまさに神秘的」とコメントしています。
- ・今後、この評価を欧米のみならずアジア、または国 内でのプロモーションにも積極的に活用していきます。



● 「蔵出(くらだし)しみかん」トップセールス

- ・海南市下津町を中心とした地域はみかん栽培が盛んで、特に貯蔵みかんについては全国有数の産地となっています。出荷時期を迎えたこの「蔵出しみかん」の更なる消費拡大を図るため、JAなど関係機関とともに、2月6日北海道の札幌市にて、仁坂知事がトップセールスを行いました。
- ・ JAと生産者、海南市などでつくる地域ブランド推進連絡会議が行っている全国キャンペーンの一環として行ったもので、中でも出荷量の多い北海道を訪問しました。
- ・札幌市中央卸売市場では早朝のせり前に挨拶し、貯蔵することで食味が向上し最高の状態で出荷していることを仲卸業者に説明、「さっぽろ雪まつり」会場でもステージに立ち、雪の降りしきる中「蔵出しみかん」の最高の味をアピールし、同行した関係者とともに会場に詰めかけた市民や観光客約800人にみかんを無料配布しました。
- ・「蔵出しみかん」とは12月の完熟を 待ち、細心の注意を払って収穫したみか んを、その園地内に建てられた木造土壁 の貯蔵庫で、酸・糖のバランスがよくな るまで貯蔵し、年明け以降一つ一つ選別 し出荷されるみかんで、こくがありまろ やかな味わいが特徴です。今年の「蔵出 しみかん」は天候にも恵まれ生育良好で 味もよく、キャンペーンの成果もあり、 値段は堅調に推移しています。



雪中トップセールス

● 第14回紀州口熊野マラソンが盛大に開催

・2月1日、口熊野マラソンが、上富田町役場前をスタート、世界遺産熊野古道を経て、

上富田文化会館前をゴールとするコースで盛大に 開催されました。

- ・今回は、小学1年生から最高齢81歳まで、県内はもちろん県外各地から計3,037名の参加がありました。また、歌手の近藤真彦さんも一般参加でエントリーされ、フルマラソンに挑戦しました。
- ・当日は快晴でしたが、気温は低く、寒風が強いランナーには厳しい条件となりました。
- ・開会式で、仁坂知事は「スターターをすることを 楽しみにしてきました。口熊野マラソンは、全国で も最高のマラソン大会です。」と挨拶しました。
- ・午前10時、仁坂知事のスタートの合図で一斉に 走り出したランナーたちは、それぞれの目標に向け て熊野路を駆け抜け、笑顔でゴールしました。





●紀の川中流流域下水道那賀浄化センターの通水式開催

- ・1月17日、紀の川中流流域下水道那賀浄化センター(岩出市)の通水式を、来賓、地元関係者、用地協力者や公共下水道の供用予定地域自治会代表者など約150名を迎え盛大に開催しました。
- ・紀の川中流流域下水道は、紀の川をはじめとする公共用水域の保全と生活環境の改善等
- を目的として、県内でも宅地開発や都市化が著し く進行している紀の川市及び岩出市を対象とし ています。
- ・今回、一部処理開始ということで紀の川市及び 岩出市のうち約108ha、約4,300人の方 が下水道の使用が可能となりました。
- ・最終的には、2市で約3,300ha、約13 3,000人を目標に2市において下水管の敷設 を行い、順次処理区域を拡大していく予定です。
- 按照資源 (2000年)
- ・終末処理場である那賀浄化センターは、岩出市の中島に位置し、処理場面積は約10h a、砂ろ過施設等を設置した県内では最新鋭の高度処理対応の施設で、管理棟のほかポンプ棟、水処理施設、塩素混和池などを整備し、汚水を浄化した後に残る汚泥処分を行う汚泥処理施設を今後整備していきます。
- ・ また、浄化センター周辺には、岩出市が「さぎのせ公園」を整備して地域住民の憩いの場として利用する計画です。

~ みなさんご存じですか?「和歌山県民歌」を紹介させていただきます ~ 「和歌山県民歌の誕生と歴史」

戦後間もない昭和23年、某篤志家から「後世に残るものを何か考えてほしい。」と※和歌山フィルハーモニック・ソサイエティー委員長の竹中重雄氏に依頼があり、同氏が県民歌の創作を提案し、同団体が中心となり計画(一般公募)を進め、同年8月に待望の和歌山県民歌が誕生しました。

【作詞】 西川好次郎(昭和 51 年度県文化功労賞受賞)

【作詞部門選者】 佐藤 春夫

【作曲】 山田 耕筰(代表作 赤とんぼ)

【作曲部門選者】 山田 耕筰

(作曲部門の公募作品に優秀作なく、選者自ら作曲)

(※和歌山フィルハーモニック・ソサイエティー:音楽教育の関係者の有志が集まって組織された民間の団体)

- ・県民歌は、県の式典等の音楽、国体その他スポーツ選手壮行式や県庁仕事始め式などで使用しています。
- ・なお、県のホームページで歌詞・楽譜(右)を行うとともに、音楽を聴くことも出来ます。(http://www.pref.wakayama.lg.jp/kodomo/symbol/kenminka.html)
- ・また、県庁(本庁)の電話保留音に採用しています。

 \equiv いなした。 とこしえで とこしえで とこしえで いや更に は くろが ふるさとは 野は 陽ほ 南国 和 にの 歌 映ぼ 稔の \emptyset Ш ね ゆの は り \mathcal{O} \mathcal{O} ると 伸びよ栄えよ 常にはる 伸 明ぶ 伸火 吹 幸き 街 5日を呼ぶ国 つねに微笑が大花に暮れて び若 を生 軌み は 常に微笑む 緑か つねに微笑 ゆたかに **の起伏 **おる浜* よさに 道ぉ おどる \emptyset 玉 め む えより くところ 玉 木 かむ 綿

ふるさと歳時記(みなべ町編)

~日本一の梅の里「一目百万、香り十里」・紀州備長炭 みなべ町 ~

梅の花

日本一の梅の里。みなべ町。「一目百万、香り十里」と称される山一面の見渡す限りの白くかわいらしい梅の花が春の訪れを知らせてくれます。「南部梅林」「岩代大梅林」が有名で週末には、梅の種飛ばし大会や音楽祭、お茶席(野点)など、いろいろな催しが開催されます。

中国から古くに渡来した梅は、平安時代には既に花の香りを楽しみ、「梅干」としても文献に残っています。南部で梅栽培が盛んになったのは、江戸時代からのこと。農民を助けるため紀州田辺藩が、やせ地で梅栽培をはじめました。やがて梅干しが江戸で人気になり、明治時代には加工場も建てられました。

大粒で肉厚、ジューシーで全国や世界でも名を馳せる南高梅。ところで「南高梅」名前の由来は?それは昭和25年に町内の114種類の梅の中から最優良品種を選ぼうということになり、「高田梅」に決定。その優良母樹「高田梅」の選定調査で努力した南部高校に敬意を表し昭和40年に「南高梅」と命名したのです。

紀州備長炭

備長炭の名前の由来は?江戸時代、紀州の炭問屋、備中屋 長左衛門が自分の名前から備長炭としたのが始まりとされて います。江戸時代には独自の製法も発達し、江戸に出荷され、 人気となりました。紀州備長炭は高級白炭で、和歌山県の県 木ウバメガシから作られ、火持ちが良く独特の火力があり、 食品の味を一層引き立てます。備長炭の起源は、とても古く、 平安時代弘法大師の頃と伝えられています。

炭といえば、主に調理用でしたが、近年は消臭、除湿、浄化などの効果が脚光を浴び、特に硬くて丈夫な備長炭建築資材や食品添加物、繊維加工などの分野でも活躍。昭和49年に県無形文化財に指定されました。



みなべ町に残る万葉歌

三名部(みなべ)の浦 潮な満ちそね 鹿島なる 釣りする海人を 見て帰り来む (南部の浦に潮よ満ちるな。鹿島で釣りする漁師を見て帰りたいから)

みなべ町ホームページ http://www.town.minabe.lg.jp/

~編集後記~

今月の表紙に選びました、和歌山の県花「梅」も満開を迎え、春隣(はるとなり)という季語のとおり、春がいっそう身近に感じられるようになりました。寒さは依然厳しいところですが、秋に植えたチューリップも根を伸ばし、いつの間にか土の中から少しだけ芽を出すなど、植物には着実な春の訪れを感じさせられます。

寒い冬の中で、春を「待ち」、春がくれば春が過ぎるのを「惜しみ」、春が過ぎれば春 を「偲ぶ」そうした感情が日本人の感性を豊かにしてきたのではないのでしょうか。

偲ぶ感覚と言えば、歴史は古人の功績を偲ぶものです。私たちが住んでいる地域においても、語り継がれた物語や文化遺産・祭りなどがたくさんあります。そのような歴史や偉人伝を子供達に教えるということは大変大切なことであり、そうしたことを学ぶことによって、子供達は、文化財を尊び、地元に伝わる祭りを守っていこうとする気持ちが備わってくるのであろうと思っています。知事も郷土愛を育む教育の充実が重要施策であるとしています。

和歌山の自然の中で、季節を待ち、惜しみ、偲ぶ感性とともに、子供達が育った地域の歴史や偉人について教育することは、感性を豊かにし、故郷を愛する気持ちを必ず育てていくと思っています。

「梅」が咲いた後は、「桜」、そして「桃」が咲く季節へと自然が移ろいます。どうか春を待ち、そして梅を惜しむ気持ちを味わいに和歌山においで下さい。

知事室秘書課長 鈴木敏彦

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX (様式自由)、E-Mail 等でお願いします。)

- ■FAX 073-422-4032
- ■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

http://www.pref.wakayama.lg.jp/

ふるさと和歌山応援サイト http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2009 年(平成 21 年) 2 月 NO.11 和歌山県 秘書課 〒640-8885 和歌山県和歌山市小松原通 1 - 1 TEL 073-441-2022